



第11回全国和牛能力共進会宮城大会

9月7日(木)～11日(月)に「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」をテーマに「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」が開催され、39道府県から種牛330頭、肉牛183頭の計513頭が出品されました。北海道からは8区分に23頭が出品されました。来場者数は5日間で約41万人、経済効果は101億円となりました。また、来場者の年代は30歳代が最も多く、次いで40歳代、50歳代とのことです。20歳代以下の人達にももっと来てもらって、和牛や畜産の魅力を知ってほしいですね🐮

今大会の北海道の受賞結果を表1にまとめました。それに道総研畜試出身の北海道推奨種雄牛「勝早桜5」の産子を強調しました。

表1. 北海道の出品牛の結果 (■勝早桜5産子を含む)

| | 受賞(順位) |
|-------------------|---|
| 第1区 (若雌) | 優等賞4席(4位) 優等賞8席(8位) |
| 第2区 (若雌1) | 優等賞10席(10位) |
| 第3区 (若雌2) | 1等賞8席(24位) |
| 第4区 (系統雌牛群) | 出品なし |
| 第5区 (繁殖雌牛群) | 優等賞5席(5位) |
| 第6区 (高等登録群) | 優等賞4席(4位) |
| 第7区 (総合評価群) | (種牛群)7位 (肉牛群)15位 (総合評価)1等賞1席(11位) |
| 第8区 (若雌後代検定牛群) | 優等賞9席(9位) |
| 第9区 (去勢肥育牛) | 1等賞 2等賞 |

体型を評価する種牛の部(第1～6区; 図1)では、出品した5区分のうち4区分で**最高位の優等賞**を獲得しました! また、3区分では上位5位内であったため、「勝早桜5」産子を始めとする**北海道の牛の体型・種牛能力の高さ**を示すことが出来たのではないのでしょうか。



図1. 第1区の商品牛(右手前の牛が優等賞4席、その左側の牛が優等賞8席)(撮影: 糟谷主査)

種牛・肉牛の両方を評価する第7区、肉牛の部の第8・9区では上位の成績に及びませんでした。これらの区の商品条件が24ヶ月齢未満と通常肥育牛の出荷月齢より5～6ヶ月早いため、**早期に肉牛を仕上げるための飼養管理技術と早期出荷に適した種雄牛・繁殖雌牛の育種改良**が必要です。

表2. 出品団体表彰

| 首席 | 次席 | 3席 | 4席 | 5席 | 6席 |
|-----|----|----|----|----|-----|
| 鹿児島 | 宮崎 | 大分 | 宮城 | 鳥取 | 北海道 |

上位入賞牛が多い道府県に贈られる団体表彰では**6席**を受賞しました(表2)。和牛先進県に続く評価を得たことで、**北海道の和牛主産地として改良と飼養管理技術双方のレベルアップ**を確認することが出来ました。

肉牛の部では、第8区で優等賞1席を受賞した宮崎県が名誉賞を受賞しました(図2)。種雄牛については北海道が田尻系の「北翔王」、宮崎県が田尻系の「満天白清」でした。これら田尻系は肉質に優れる系統です。ちなみに「勝早桜5」のような気高系は肉量に優れる系統です(表3)。北海道の成績を見ると、枝肉重量は良かったですが、肉質(サシ等)で差がついた印象です。前述した目標の**早期に肉牛を仕上げるための飼養管理技術と早期出荷に適した種雄牛・繁殖雌牛の育種改良**を進めて、次回はもっとレベルアップした北海道産牛肉を見せつけましょう!

図2. 肉牛の部の名誉賞を受賞した枝肉横断面画像(撮影: 帯広畜産大学 口田教授、提供: 全国和牛登録協会)



表3. 「北翔王」と「満天白清」と「勝早桜5」の血統情報

| | 生年月日 | 父 | 母の父 | 母の母の父 | 所有 |
|---------------|-----------|---------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 北翔王 (田尻系) | 2011/12/4 | 北乃大福 (田尻系) | 勝忠平 (気高系) | 第1 花園 (藤良系) | (一社) ジェネティクス北海道 |
| 満天白清 (田尻系) | 2013/7/21 | 安平 (田尻系) | 白清85の3 (田尻系) | 福桜 (気高系) | (一社) 宮崎県家畜改良事業団 |
| 勝早桜5 (気高系) | 2006/6/23 | 勝忠平 (気高系) | 安平 (田尻系) | 隆桜 (気高系) | (一社) ジェネティクス北海道 |

畜試は「第11回全共北海道対策本部」の構成団体として、全共対策委員及び出品委員を派遣し、主に肥育牛の飼養管理指導や出品牛の選抜審査に協力してきました。また、畜試が造成した種雄牛「勝早桜5」の産子が出品されており、畜試の和牛改良の成果を問われる場ともなりました。今後、次回(2022年に鹿児島県で開催予定)以降の全共大会に向けて登録団体・行政等と連携し、飼養管理技術指導(超音波診断等)やゲノム育種価を用いた選抜技術等を通じて、チーム北海道としての全共サポート体制に寄与していく予定です。

小ネタ

withnews 2018年1月12日掲載

宮崎県の農家さんが、全共の種牛の部に出品する牛の毛に艶を出すために、ツバキのシャンプー&コンディショナーで毎日牛を洗っていたそうです。ちなみに前回の大会は「ダメージ補修のバンテーン」を使っていたそうです。ヒトの商品を使っている事に驚きました。今後はヘアマスクやヘアオイルも使うようになるのでしょうか?



スナップ

「子牛の幼稚園」(投稿: 山口研究職員)



今年もたくさんの子牛が誕生しています! 春までにもっと増える予定です。

皆さまからのおもしろスナップをお待ちしています。採用された方には「ここにこウッシーステッカー」を差し上げます。